

### 3 パネルディスカッション

「地域包括ケアシステムの構築に向けて私たちができること～自分たちの活動の取組から～」

#### (1) 川田 和子氏

鷺ヶ峰西住宅自治会会長、第5期区民会議副委員長。特に、地域での見守り活動に力を入れており、「おしゃべり広場」や「稗原ゆ〜ず連絡会」のコミュニティカフェの運営等の活動をされている。



私からは、自治会の立場としての取組と区民会議の立場としての取組の2つを紹介させていただきます。

住民が知り合うことで、防災や防犯にも助け合いのつながりが自然と生まれます。人と知り合うことで、ひとり暮らしでも、身近に声をかけられる存在がいると思うと安心にもつながります。

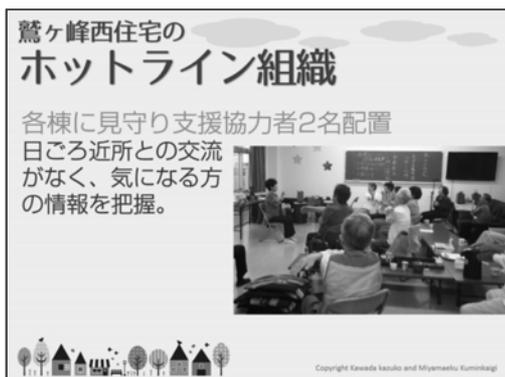
鷺ヶ峰西住宅の「人が集い、知り合える場」は、平成22年に始まり6年目を迎えました。当初は自治会を敬遠する方が多く、また自治会との信頼関係づくりに時間がかかりました。私たちが掲げる「自治会福祉」は、同じ方向に住民の意識を向けることが必要だと思っています。閉めていることが多い集会所でしたが、せっかくある資源は活用すべきだと、週に1回「おしゃべり広場」をオープンしました。



人と交わることが元気につながる人は、足しげく通われます。自宅で過ごすことを好まれる方も多いのですが、それはその方の選択でよいと思っています。

ただ、住民で日頃より気になる方の情報を把握しておくことが必要と感じておりましたので、全7棟に見守り支援をしていただく方2名ずつにご協力いただき、「ホットライン組織」を立ち上げました。

ホットラインからの情報で気になる方を訪問し、介護保険の必要があれば地域包括支援センターに来ていただくなど、私たちの持っている情報は少ないので、関係機関に相談や紹介をするようにしています。そのような関係が、自治会への信頼につながっていきました。ホットライン会議には、毎回地域包括支援センターの職員が参加し、情報交換をしています。





重度疾患をお持ちでも、ご家庭でひとりで暮らす方もいます。24時間体制でのヘルパーによる訪問介護、訪問看護、訪問入浴、福祉用具の貸与、居宅療養管理指導などを受けながら、自宅で生涯を終える方もいました。その方たちを通して、重度の状態でも自宅で暮らすことは可能なのだと実感しました。



しかし、介護保険だけでその方を見ることは難しいと思います。そこに家族やケアマネと協力体制をとる地域の方が加わることで、専門機関の体制がスムーズにまとめられると言っても過言ではないからです。

実際、おしゃべり広場のときに自治会の方のケア会議がそこで行われることもありますし、各関係機関の担当者が緊急で駆けつけるまでの間、自治会が様子を見に行っていきたいと、その担当者から連絡が入ることもあります。



こちらの写真は、ご本人の希望で1週間前に「おしゃべり広場」でケア会議をしたときの様子です。このときにケアマネジャーが決まり、利用されるリハビリのデイサービス担当者福祉用具の事業所の方、申請に関わった地域包括支援センターの方が初めて一堂に会しての会議でした。「おしゃべり広場」に参加する方は、自分の状態を理解してほしいという方が非常に多いです。



毎年変わる自治会・自主防災組織の役員には、「見守り・支え合い」の意識を持っていただくために、ホットラインが中心となって合同で研修会を最初に実施しています。

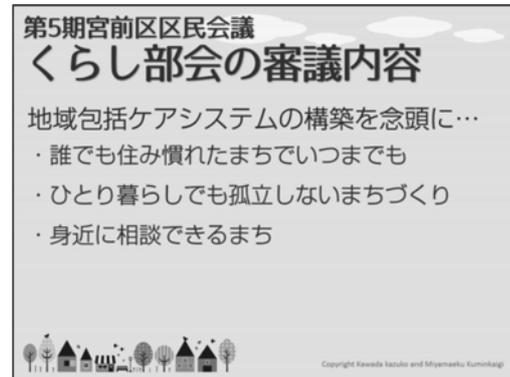
ケアシステムの掲げる「医療、看護、介護、福祉、生活支援」の構築では、公的機関や専門機関が検討しておりますが、しっかりと機能していただければ、自治会としても安心して窓口の役割ができるのかなと考えます。

ケアシステムは、その方がどのような状態であっても望まれる暮らし方を実現するために、分野を超えて情報を共有し、生活を支える取組だと私は捉えているからです。

以上が、これまでの鷺ヶ峰西住宅自治会での見守り・支え合いの取組でした。

続きまして、第5期宮前区区民会議の取り組みをお話します。

区民会議は2年ごとに宮前区の課題を話し合い、検証しながら区役所に提言していく組織です。今年度は2つの部会がそれぞれの課題に取り組みました。そのひとつが、「誰もがくらしやすいまちをめざす部会」、通称「くらし部会」です。



高齢者の話をするときの根底には、今後福祉の中心となる地域包括ケアシステムを念頭に置いて話し合われました。しかし対象はさまざまで、ひとり暮らしでも孤立しない環境が必要、また子育ての悩みや身体的な悩みを気軽に相談できる身近な場所、そしてそこに行けばいろいろな情報を得ることができ、かつ必要であれば関係機関につなげてくれる場所を作ることが、これからは大事だと結論を出しました。

サロンの集う場所は、いろいろな形が考えられました。そこでひとつの形として、既存しているカフェとタイアップして、地域コミュニティカフェの役割を持っていただけないかと考えたのです。これなら家賃が掛からないということが大きな理由でもありました。

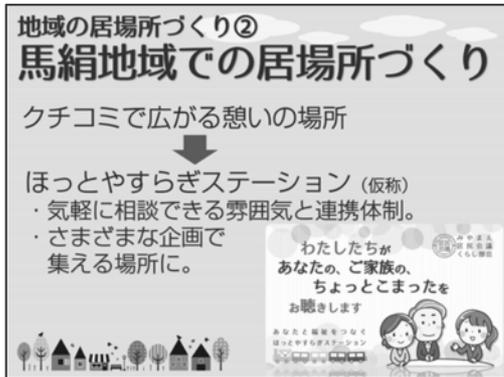
ちょうど、稗原地域にいつでもカフェをオープンできる状態のお店があり、そのオーナーが地域コミュニティカフェの趣旨に賛同してくださいました。

地域によって資源のありようが違いますので、あくまでもひとつのモデルとしてお聞きください。この地域では先んじて地域一帯で福祉を考えようと、地域に存在する14の団体長が「稗原ゆ～ず連絡会」を結成したばかりでした。



この地域コミュニティカフェを拠点とすることで、まさに「子育て、障害、高齢、医療、福祉」が手をつないでのケアシステムが生まれました。

稗原地域にはいろいろな社会資源があり、かわさき記念病院や介護老人福祉施設鷺ヶ峯、この施設内に鷺ヶ峯地域包括支援センターがあります。稗原小学校、障害者支援施設みずさわ、鷺ヶ峯老人いこいの家、障害者の通所施設はぐるま工房もあります。小さいところですが、支援がいろいろある地域です。



また、宮前地域では馬絹に、オーナー家族が地域の方たちの憩いの場所としてほしいと、今年オープンしたカフェがあります。口コミで来店者は多く、相談を受けることもあるとのことでしたので、「くらし部会」では地域包括支援センターなど関係機関とカフェをつなげる提案をし、相談窓口としての機能を持つことに賛同していただいたところです。

どのような場所でも、困っている方が情報を得る場所であり、そこが身近であれば心強い存在になると、「くらし部会」は考えています。

同じ宮前区でも、地域のあり方によりその手法は違って当たり前ですが、「身近で気軽にそして自然に福祉につながる場所」というコンセプトは共通として、地域の方が中心になって広がっていくために、協力していきたいと思っています。

以上、区民会議「くらし部会」の現在の取組をご紹介します。

これからも、自治会活動、区民会議にご注目いただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

